

平成19年3月6日（火）

（午後1時1分 再開）

○副議長（杉本雅英君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番12、10番 霜竹君。

〔10番（霜竹俊憲君）登壇〕

○10番（霜竹俊憲君）議長のお許しを得ましたので、壇上より一般質問を行います。

まず最初に、私は議員活動最後の一般質問で、今、私が強く関心を抱いているスポーツの一大イベント、第70回国民体育大会の開催についての質問をさせていただきます。この問題は、今後も年を追うごとに激しく当議会でもさまざまな角度から一般質問が予測されると思われませんが、とりあえず一步一步前進するためにも私が最初のスタートを切らせていただきますので、よろしくお願ひ申し上げます。

再生和歌山県の担い手として仁坂新知事が誕生しました。仁坂知事は、「和歌山を元気に」活力あるふるさとづくりと心豊かでたくましい人づくりを願って、平成19年1月17日に平成27年第70回国民大会を和歌山県に招致することを発表され、木村前知事の汚名を振り払う明るい話題として県民挙げての期待と歓迎ムードに包まれました。このことは昭和46年黒潮国体から半世紀近い44年ぶりの2順目の国体開催となります。開催に対し、昨今の厳しい社会情勢・状況の中で、施設整備や開会式・閉会式などをはじめとする大会準備・運営に関する人的財政負担が増大する問題が生じます。このためには大会準備・運営に関しては簡素・効率化をめざし、改革・改善に向けた取り組みが大切だと思います。

国民体育大会とは、広く国民の間にスポー

ツを普及し、スポーツ精神を高め、国民の健康増進と体力の向上を図り、あわせて地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与することと国民生活を明るく豊かにしようとするものでありますとうたわれております。私が今ここで先の長い問題を取り上げ、橋本市が合併して1年がたち、まだまだ市民生活に直結した多種多様な問題を抱える中、何かと思われるかもしれませんが、しかし、和歌山県が国民体育大会を開催するならば、橋本市には立派な県立体育館を有し、紀北地方のスポーツ振興の拠点として位置づけられ、また南馬場には球技の競技が可能な多目的広場もあります。既存施設の活用が求められ、条件の整った市町村にとって、とりわけ橋本市については国体開催は避けて通れない問題かと思うのが当然であります。

和歌山県の東の玄関口としての立地条件と相まって、開催を迎える8年後には少なくとも京奈和自動車道、国道371号橋本バイパスの整備も充実されていることと思います。国体開催地としての環境・施設等の諸条件が最適な橋本市を県の教育委員会、県の体育協会の国体準備室も黙ってはいないでしょう。橋本市民に夢と感動を与え、市の発展につながるPR効果の期待も大きい国民的スポーツの祭典を橋本市はどう受けとめているのか、また開催誘致についても意欲的に取り組む姿勢を確立してくださることを心からお願い申し上げます。

まず1点目は、体育（スポーツ）行政について市長の考えを問うであります。スポーツは人間の体を動かすという本質的な欲求にこたえとともに、爽快感、達成感、充実感、

人との交流連帯感があり、健康保持の増進、体力の向上に欠かせないのがスポーツの持つ価値観だと思います。市民の日常スポーツ活動やレクリエーション活動の場であるスポーツ施設は、地域スポーツ振興を図る上で基礎的な条件であり、今後、住民スポーツの多様化についての対応は、施設の整備・充実が行政に課せられた大きな問題かと思えます。このことについて市長の率直なお考えをお尋ねいたします。

2点目は、橋本市の開催誘致はいかにあります。去る2月16日、県の体育協会による国体競技団体37競技の代表者会議が開催され、私はソフトボール競技団体として出席しました。その席で8年後の国体に向けての取り組みの方向、強化対策、国体準備室の概要について協力要請がありました。その折、早くも県下の各自治体から開催誘致に関する問い合わせがあり、検討課題として動いていることを話されましたが、国体準備室では誘致申請をもって即決定とはいかず、国体準備室と各競技団体、そして市町村自治体の3団体が一体感となって初めて開催の候補地として認められ、最終決定は市町村の施設や環境、取り組む姿勢、熱意が審査材料とされ、さらには競技団体とのかかわり等、総合的審査によって県の体育協会実行委員会が決定されるという、このような方向が言われております。果たして橋本市は誘致をどのように考えているのか、どう対処されるのかをお伺いいたします。

3点目は、市長在任中の開催の意思決定の確約をであります。さて、国体準備室は平成21年、今から3年後には競技開催地の決定を行い、残る5年の期間内で施設の整備・運営役員人的機構等を開催地実行委員会で協議しつつ国体を迎える段取りとなります。これに先駆け、本年4月、国体準備室は、私ども各

競技団体に対し会場の意向調査が行われます。続いてこの5月には第1回市町村開催意向調査が各市町村の首長あてに文書が届くと思います。以上の流れの中で、木下市長の任期は平成21年でございます。この期間中に意思決定を確約され、願わくば続いて市長に2期目の続投を果たしていただき、国体開催の先頭に立って橋本市のために頑張ってくださいを切望しますが、いかななものか市長のご答弁を求めます。

4点目は、女子ソフトボール競技の開催の提案であります。皆さまもご承知のとおり、橋本・伊都地方は、小学生から中学、高校と、県下はもとより近畿、さらには全国的にも女子ソフトボール熱は盛んで、橋本・伊都地方の特技として有名であります。それゆえに全国優勝や準優勝が幾多となくおさめた郷土の誇りとして名声を博しております。地元の子どもたちが晴れの国体の舞台で活躍できることは夢であり希望であり誇りでもあります。

現在の小学校3年生は8年後には高校3年生になり、4年生以上は成年の部で県の代表選手となって活躍していただけるものと確信しております。私の提案する少年女子の部は、開催するとなれば市民の関心も高く、大盛況の盛り上がった国体一色ムードに包まれることは間違いございません。いずれにしても、開催するについては大変な苦労と努力が必要です。しかし、そのことが子どもたちの体力の向上と住民スポーツに対する関心が高まり、ふるさとに活力を与える原動力となるものと思えます。

最後に、少年女子ソフトボールの開催に前向きな方向で示され、提案に対しご理解ある回答をお伺いいたします。

以上で壇上よりの質問を終わります。

○副議長（杉本雅英君）10番 霜竹君の一般質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）スポーツ青年であります10番の霜竹議員のご質問の第70回国民体育大会の橋本市開催誘致について、お答えを申し上げます。

体育行政につきましての市長の考え方についてでございますが、私は毎日を元気で健康に過ごすことは社会を支える大きな礎とっております。健康を維持するためには、日頃からスポーツに親しみ、心身を鍛えることが必要不可欠であると認識をしております。市民の多くが参加していただく市民総合体育大会や橋本マラソン大会、また各種体育団体が行う競技大会等に加え、体育館などの社会体育施設及び学校の体育館、運動場の文教施設の開放など、多くの市民がスポーツに慣れ親しんでいただく環境づくりも重要であると考えてございます。

過日、橋本市のスポーツの表彰式がございました。私は体育協会の会長も兼ねておるわけですが、表彰を受けた功績あった方がお二人でございまして、個人が73人、団体が19団体、全体として263名お一人お一人に会長からの表彰、感謝状をお渡しさせていただいたところでございまして、大阪のほうへ企業誘致に参りますと、橋本市のスポーツはどうですかということ、これはやっぱり体力につながってくるんでしょうな、これは県下で一番施設が多いんですということで写真ブックを見せて、企業誘致の場所はわずかですが、体育施設だけは何十枚というほど渡してあるんです。それに非常に感銘を受けていますね。心身ともに鍛える、そしてスポーツに親しむ方が悪い人はおらないということでございまして、私個人のことも察しておるかわかりませんが、市長になる前にも、マラソン大会には日の丸の大きな旗、あれを持って行って、

そうして北馬場の交差点の端のほうで旗振りばかりさせてもうた記憶があるんです。これはもう何人からもお礼の電話があるんですよ。あの旗を振るとる年寄りのおっちゃん、あれはどこのおっちゃんよということだね。あれは県会議員の木下さんやというようなことで、私のところにお礼の電話。よう走らなくても気持ちというものをみんなとも、ああいう大きな大会というのは、スポーツする人は勝手にしとったらええわというもんやないと思うんです。やっぱり市民との一体感が非常に大事やと思うんです。よう走らん人は手でも振るとか、今年も沿線の皆さんに指示しました。寒いときだけでも、小さい日の丸の旗ぐらい渡すさかいに、そして大勢応援をいただいて、したわけでございますが、その気持ちについては十分認識をいたしておるところであります。

次に、橋本市の開催誘致についてでございますが、今回、和歌山県が招致を進めております平成27年開催予定の第70回国民体育大会では、正式競技として37競技が実施される予定と聞いております。仁坂知事が先日の記者会見の中で、国体招致については県の厳しい財政状況を勘案し、簡素で効率を図りながらと述べられておるように、現在、国体を開催するにあたっては開催する自治体の財政状況が厳しい中、大会規模の適正化や近隣自治体の競技施設の活用など、いかに大会の簡素化、そして効率化を図っていくかが大きな課題となっております。この簡素化、効率化の観点からいうと、本市につきましては、既に県立橋本体育館や南馬場の緑地広場、そうした施設がかなり整備されておるわけですので、決して恥ずかしくない施設と理解してございます。国体の競技種目の中には、これらの施設を会場として利用することができる競技もあるかと考えてございます。

しかしながら、たとえ既存の施設を活用する場合であっても、国体の正式競技を誘致するとなると、何らかの施設の改修であるとか、あるいは補修であるとか周辺整備、そういうものを行わなければ、その基準に適合しない面もいろいろと生じてこようかと思いますが、私としては可能性は十分あると、そう判断をいたしてございます。

また、そのほかにも選手の育成や受け入れ体制の問題など、取り組まなければならない課題はいろいろと考えられますが、たとえ簡素化・効率化に努め、県などから財政支援を受けたとしても、少なからず市としての費用負担は発生してくると思われまます。議員もご承知のように、本市の非常に厳しい財政状況の中で、この難局を乗り切るために、本年度橋本市行政改革大綱及び橋本市集中改革プランを策定し、現在、職員一丸となって行財政改革に取り組んでおるところでございます。国体の開催は橋本市にとって市の活性化につながるわけでございますし、本市の魅力を全国にアピールする良い機会であろうと判断をいたしてございます。これの細かい整備等につきましては、それまでにきちっと財政の建て直しをして、堂々と胸を張って受け入れられるような形づくり、体制づくりを進めてまいりたいと考えてございますので、今後、慎重に検討しなければならないこともございませぬけれども、そういうことでご理解をいただきますようお願いを申し上げたいと思います。

なお、スポーツ行政全般につきましては、地方教育行政法の上で教育委員会の職務権限となりますので、教育長から残りの答弁をいただきます。

○副議長（杉本雅英君） 森本教育長。

〔教育長（森本國昭君）登壇〕

○教育長（森本國昭君） 少年少女ソフトボー

ル競技種目の提案についてであります。国民大会実施競技は正式競技として37競技、公開競技として1競技がございます。本市につきましても、体育協会、スポーツ少年団等が各スポーツ種目の分野で活発に活動していただきまして、本市の体育振興に寄与されています。

議員おただしの少年女子ソフトボール競技の招致の提案でございますが、開催する場につきましては、競技種目の選択は県の関係機関との競技、また橋本市の運動施設の状況、立地条件等を検討しなければなりませんので、検討課題とさせていただきますと思います。

○副議長（杉本雅英君） 10番 霜竹君、再質問ありますか。

10番 霜竹君。

○10番（霜竹俊憲君） 先ほどの市長の非常に僕が期待した以上の素晴らしいご回答をいただいで心強く感じておりましてありがとうございます。実は市長がどういう答弁をするかということで、スポーツ仲間からはいろいろあれやこれやというようなこともありました。それはもうカットします。そやないと、市長がせっかく前向きな姿勢をいただいたので、失礼かと思っております。

ただ、1点だけ申し上げておきたいのは、橋本市からは立派な各種目の競技の選手がおりますけれども、中には全国大会に行く、県の代表で行く人もおりますし、また世界大会までは聞いてませんが、そういう可能性のある人の中にはおると思います。そういった際には、やはり市長から励ましの言葉とか、あるいは勇気づけの、壮行会とは申しませぬけれども、市長室に呼んで激励の言葉をあげたら勇気になる、それが励みになると思っておりますので、このことをできたら前向きな方向で考えていただきたいと思います。と同時に、帰ってきたら当然またお礼に報告に参りますと。

そのときは立派な成績をおさめた人については、それなりの感激の優勝の喜びとか、入賞のそういったことを褒めたたえてやったら、なおそれに勇気づけられて、また一層取り組むような姿勢が生まれると思いますので、そういったことを市長からやっていただくということは非常に選手も、私もそういう経験がございますので、勇気づけの一環としてそういうお言葉を今後ともお願いしたいというのが要望としてお願い申し上げます。

それから、国体開催については、市長のほうからは一応いろいろと前向きな検討ということで、これも前向きな検討の方向ということは、心意気は十分に開催の意思があるんだと、僕はそういうふうに確信しておりますので、心強く感じております。そういうことで市長の姿勢は大いに評価して、この間も市民マラソン、それから市民総体に一緒に市長と出席しましたが、市長はいつでも走れるような体勢のスタイルで、帽子もかぶっていつでもスポーツできるぞという姿勢で来ていただいたことに対しては、やはりスポーツに深い関心があるんだなということを感じましたので心強く思っております。今後ともそういうスタンスで取り組まれたら、スポーツ仲間も市長も運動するんだなという認識を植えつけると思いますので、スポーツ市長としての一環もアピールできると思いますので、背広も結構ですけども、今後ともそういうようなジャージで来てもらうといいんじゃないかと考えておりますので、よろしくようお願い申し上げます。

それと、あと市長の任期中の開催の件については、この国体はご存じのとおり、だいたい半世紀に1回しか来ません。それで二度と国体を開催する市長は全国どこでもおりません。50年に1回ですので、50年も市長をすることはないし。また、たまたま市長がやった

さかいて、50年目の4年の間がうまく当てはまったら国体の開催の市長として迎えるわけですけど、これもその人の年の状況で、国体を迎える市長としては、木下市長は1回続投せんと、開催の花形とは言いませんけども、せめてそういう道筋は市長としてつけていただいたら僕は心強く感じております。そういうことで経済効果も大きいし、できるだけ市長の英断をもって意思決定をされるような方向の理解をしていますので、よろしくようお願い申し上げます。

最後になりますけれども、少年女子ソフトボール競技の開催でございますが、僕はなぜこういうことを申し上げてアピールというか希望を提案するかといいますと、これは今から心の準備というか、取り組む意思があるならば、ソフトボールは最も関心の高い人気のある競技でございます。それで、しかも地元の子どもが活躍するであろうと思うし、それが子どもたちに最大のプレゼントになり、8年に向かっての目標としてプレゼントになろうと思いますので、またそれは今後、橋本市の立派なソフトボールの各レベルの高いチームが競い合って前進することと思います。そういうことを考えますと、やはり女子ソフトボールがあります。実は岡山県の国体あるいは兵庫県の昨年の国体においても、聞くところによると女子ソフトボールは企業の誘致の取り合いだったそうです。それで県当局の体育実行委員会は非常に苦勞されて、女子ソフトボールは特に男子と違って女子のほうは花形であり、また学校の父兄、それから応援、これが非常に盛会な、いわゆる会場をにぎわして花形競技として一応もてはやされておりますので、できたら、おそらく和歌山県は紀の川市と上富田町が我々仲間では立候補されると思いますけども、ぜひとも橋本市に、南馬場の施設を活用してやったら整備もできま

す。国体の費用は470億円。だいたい10年の平均を各府県でとっているそうです。それをいくらかでも整備充実に生かされるんじゃないかということが橋本市にとってもプラスになるということです。ひとつぜひとも実現にお願いしたいと思います。

最後になって申しわけございませんが、これらの開催誘致については、市の政策の司令塔であります企画部長の全体的なお考えをいただいて締めたいと思いますので、企画部長のご答弁をお願いしたいと思います。

○副議長（杉本雅英君）吉田企画部長。

○企画部長（吉田長司君）企画部長で言うというのが僭越でございますけれども、市長が言ってましたとおり、市長の在任中にできるだけ取り組みをやっていくような市長の考えがございますので、同じような考えでやっていきたいというふうに考えてございます。

○副議長（杉本雅英君）10番 霜竹君。

○10番（霜竹俊憲君）以上で終わります。

○副議長（杉本雅英君）これをもって10番 霜竹君の一般質問は終わりました。